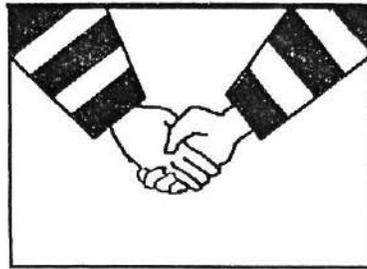


こどものへや



発行責任者 滝川 郁子
〒239 横須賀市長沢 87-2
TEL. FAX (0468) 49-8349

県障害連利用者家族研修会

横須賀にも欲しい ファミリーサポートセンター

「昂」所長 曾根直樹氏の講演から

県障害連の利用者家族研修会が、十一月二十六日に開かれました。ファミリーサポートセンター「昂」所長 曾根直樹氏から利用者中心のレスパイトサービスのお話を伺いました

研修会の案内に、ファミリーサポートセンター「昂」のあり方として、①手続きが簡単 ②数日の宿泊から数時間の一時預かりまで迅速柔軟に対応する ③家庭生活に近い状態で、利用時間を快適に過ごすことができ

料だそうです。年会費六万円、利用料その他の料金が必要です。会員の定数は百十人で、待機されている方も居られます。実際の活動はスライドにより説明がありました。一時預かり・送迎サービス・介護派遣が

あり、送迎サービスは特に重度重複障害者の場合、どなたにでも頼めるものではないので、本当に欲しいサービスです。介護派遣では例として家族が結婚式やスキーに出かける時同行しているスライドが映りました。サポートさえあれば障害者も家族の一員として一緒に行動できるのです。

考えてもいなかった課題が次から次へと出てくるが、根性で乗り切るそうです。大変な仕事を淡々と話され、お人柄が感じられました。横須賀にもこのような支援センターが必要だと思えます。

幹大君、さようなら、安らかに

十九日(火)に、所員の鈴木幹大君が亡くなりました。十三日の水曜日には、元気で清水先生の訓練に参加し、昼食も良く食べていたので、急変が信じられませんでした。マザースAの三歳の頃から、小学校・中学校・高等学校、そして「こどものへや」と、ずっと友達でした。寂しいという実感もまだありません。ただ言えることは、皆、幹大君の分も頑張るといふことです。

幹大君、安らかに:

④いつもの生活リズムが保たれ、通園・通学・通所先にも通うことができる。⑤受け入れ側が、子どもについての十分な情報を持っていて、子どもにも慣れている。⑥理由を問わず利用できる。⑦気軽にける距離にある。とのつていました。親と本人の気持ちを、本当に良く汲み取って下さっていると思えました。曾根さんが障害児の通園施設の職員をされている時、お泊り保育の夜に心身共に開放される母親の姿を見た事が原点だそうです。

平成四年より有料の介護サービスを始められ、今年の十月には障害者プランの市町村障害者生活支援事業(国庫)として相談サービス部・埼玉県重度障害者生活サービス事業(県単独事業)として、ケア・サービス部を合わせた障害者生活支援センター「ひき」が始まりました。この事業に参画した市町村の利用者は無料となり、他の方は従来通り有

十一月十六日、SKY研修会において、国立特殊教育総合研究所の重度障害研究部、中澤恵江先生より、「重度の人とコミュニケーション」というテーマでお話を伺いました。最初に、次の様な内容で話がありました。「日常生活動作の面で自立することが難しい重度の障害者にとって、真の意味での自立とは、自分の意志で生活することであり、その為には、コミュニケーションの確立は重要な課題である」この日の話は終始、この事がベースになっていたように思いました。

まず、二つの作業所を見学されての感想として、①所員が喜びを持って来ているのは何よりであること。②仲間との関わりが持てる事のすばらしさ等、養護学校卒業後、作業所はコミュニケーションの場として重要な役割を果たしていると述べて下さり、とても勇気付けられました。「こどものへや」でのエピソード

「重度の人とコミュニケーション」

SKY研修会の報告

「さとちゃん」(高一)との関わりを、ビデオを通して紹介して下さいました。

さとちゃんは、重度重複障害児で視力は光と暗さがわかる程度ということでした。さとちゃんが玄関に着いた時から、やさしい声掛けや歌などで、これからのスケジュールに期待を持たせ、意欲が出るまで時間をかけて待つ場面等、足をびんと伸ば

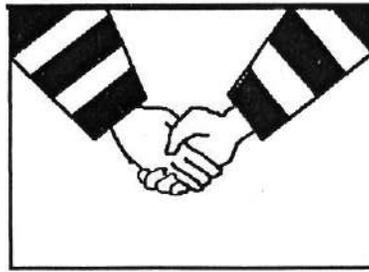
す「イエス」の意思表示を待つ、さとちゃんの意志を尊重している様子が良く分かりました。途中、コミュニケーションという言葉は、「分かちあう」という意味が語源となっているという説明がありました。「あいちちゃん」(三歳位?)との交流の場面で、小さいあいちちゃんを胸の中に入れてるようにして仰向けになっている姿や、最後の場面で、三人の先生達のギターと歌声を聴きながら、仰向けのまま、しかも手と足をしっかりと三人の先生にタッチして、安心して眠っている姿はまさに「コミュニケーション」そのもののように思えました。

先生はこれを機会に、今後も作業所を訪問して下さることを約束して下さいました。コミュニケーションルーム「こどものへや」へのお越しを、一同心待ちにしております。

指導員 鈴木成子

こどものへや

発行責任者 滝川 郁子
〒239 横須賀市長沢 1-12-30
TEL. FAX (0468) 49-8349



反映させて欲しい皆の意見

体系的・総合的な基本計画づくりを！

市障害者計画策定委員会

昨年十二月に策定された障害者プランに基づき、横須賀市は障害者計画策定委員会を発足させました。

私達『こどものへや』の親達は、成人した重い障害を持つ子どもの日常のケア・家事・作業所の運営と支援・新しい施設を造るための取り組み等、忙しさに加えて、障害者計画について考え、学ぶ意欲に欠けてしまいがちでした。

今年度は作業所連絡会等の積極的な活動に促され、講演会やシンポジウム・ヒアリングと参加し、問題点等を知ることができました。

特に感じたことは次の二点です。一点は、障害者計画策定委員に障害の重い当事者が、何故入っていないのかということです。政策決定段階から参加することが、真のノーマライゼーションと言われていますが、委員になるとその障害の方の意見のみが強くなってしまつと、危惧されるのでしようか。ヒアリングの中で「計画はともすれば、障害者本人に対する支援ではなく、家族に対する支援となりがちである。本人が主体的に支援を受けられるよう、権利を明記して欲しい」というものがありました。親の私達は、例えば「レスパイトケアがあれば、心にも

う少し余裕ができ、子どもに対してもやさしくなれるのに」という発想をします。が、「本人が少しでも家庭で心地良く過ごす為に、親にも休暇が必要」というように親自身が考え方を変えていかなくてはならないのです。その為にも障害者本人が委員になることは、重要なことだと思います。

次に、策定委員会の年五回という回数少なさと、一年という期間の短さが気になりました。委員会と議

十二月六日(金) 天気 晴時々曇
このところの寒さで体調をくずし休む人が多かったのですが、やっと今週あたりから全員が元気な顔を見せる様になりました。今日は大陸からの寒波とやらで外は北風が強く、皆は病み上がりとなり、折りよく、『小さき花の園』の石田先生が何か楽しい物を持って来てくれることになっていたので、日課の散歩は取り止めです。皆で玄關の方をジーンと見つめ首を長くして待っていると、しばらくして扉が開き先生登場！

事録の公開、ヒアリング(十一月十一日・十二日)に行われ、発言が絶えることがなく、皆の日頃の思いがほとばしり出ていました。計画策定に関する意見の募集等、会の透明性と意見を広く求めたことは、画期的なことであり評価できることです。がその意見を議論し、計画に盛り込んでいくには、二月に開かれるあつ一度の委員会では充分なものでしょうか。

私達の子どもの学校時代を考えると、どこからが教育で、福祉で、医療でと分けては考えられないことばかりでした。市はそこで暮らしている障害者にとって、一番身近な行政機関です。障害者施策を推進していく上で、この障害者計画がいわゆる縦割り行政ではなく、体系的・総合的な基本計画となることが望まれます。

所長 滝川 郁子

障害者の日のキャンペーン

今年十二月の七日(土)・八日(日)・九日(月)と三日間にわたりに行われました。京急汐入駅・JR衣笠駅・京急久里浜駅に加え、京急追浜駅周辺でもキャンペーンを行いました。

肢体不自由の作業所は七日(土)に、汐入駅周辺の活動に参加、道行く方々に、作業所の製品・作業所の一覧表・リーフレット・障害者団体のパンフレット等を手渡しました。理解を深めていただけるように思いを込めながら...

(土)(日)は、作業所が休みな為、障害者本人の参加が少なかつてしまったのが残念でした。

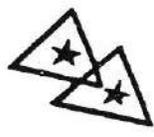
黒っぽい毛布等でさえぎり、ハンドベルのクリスマスソングが流れる中で、かもいに吊るしたミラーボールに色とりどりのセロファンをかぶせた懐中電灯を当てると、暗闇に反射した光が舞いおどります。その光に手を伸ばして触れようとする人、興奮

もいました。次に出てきた物は、皆も良く知っている、バランスボード(?)でした。その五右衛門風呂を浅くしたような物を見ると、小田君は積極的に自分から入り込み、「動かせ」と言わんばかりに声を出し、グルグル回したり揺らしたりしてもらい、満面笑みで大喜びでした。他の人達も乗せてもらい、同じように動かすと、楽しそうな笑顔をみせていました。

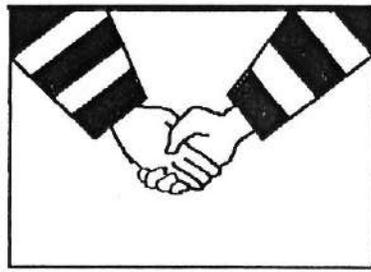
味深そうにじつと見ている人、しばらくすると立ち上がり暗闇から出て行きたくなつてしまつたけれど出て行けないと解ると、外の光が入り込んでくる所へ行き、うらめしそうにしてそのうち眠くなつてしまつた人

いつも楽しい一時をありがとうございました。

指導員 植木 智子



こどものへや



発行責任者 滝川郁子
〒239 横須賀市長沢 1-12-30
TEL. FAX (0468) 49-8349

今年も「楽しみながらできること」を探して

『こどものへや』も四回目の正月を迎えました。普通なら大学を卒業して社会人となり、自立していく年頃です。(時々世間の物差しで計らないと、時の流れがわからなくなりますが) 所員達の肩幅の広がった後の姿や、ドツシリした落ち着いた態度は青年そのものです。そして、それぞれの個性や好みや体力の違いも、一層きわだつてきました。来年度に向けて、今までの過ごし方の良いのだろうかと考えていたところ、先日の上りと園の研修会で、『デイセンター山びこ』の援助の視点のお話を伺い、『こどものへや』の現状と比べてみました。

一人一人の個性を大切に

『山びこ』での援助の視点は、次の四つです。
○安心感の尊重 ○個性と長所の尊重
○主体性の尊重 ○人格の尊重
「安心感の尊重」については、どんな時も、嫌がることを無理に押しつけることはしませんし、指導員が所員を全面的に温かく受け止めています。但し、突発的な発作や怪我などに対応できる環境ではありません。「個性と長所の尊重」「主体性の尊重」では、皆の大好きな社会見学をできるだけ本人の好みや体力に合わせ計画していますが、一層の工夫が必要だと思います。「人格の尊重」については、生命を維持する全てを他人の手に委ねている重度重複の成

人にとって、とても重い課題です。すぐにできる事として、「君、ちゃん」ではなく「さん」で呼ぶ、というものがありません。意識して変えないと、親しみを込めての愛称での呼び方が、中年になっても続いてし

講演会「地域に暮らす人たちのニーズと施設の役割」

一月十八日、武蔵野市にある「デイセンター山びこ」施設長の柴田洋弥氏の講演会が、三浦しらとり園で行われました。

『山びこ』は、平成五年、武蔵野市の中でも最も重い知的障害を持つ人たちの為に設立された通所施設です。様々な活動を通して、生き生き

横須賀・三浦地域の作業所(二十)が集まった「ふれあい交流会」が、一月十七日(金)総合福祉会館にて行われました。

ホールは熱気ムンムン。プログラムは、全体オリエンテーションで始まり、ゲームへと。聞き慣れた『さんぽ』の曲で『ジャンケンゲーム』、次の『ゴロゴロカ』では、一曲目でボールが真一君の前で止まってしまい、円の真ん中へ出るはめになりました。

午前の最後は、デイスコタイム。

もうそうです。私達も「さん」で呼ぶ事を何回か試みてはいますが、いつの間にか「ちゃん」に戻ってしまっています。堅苦しく考えると、うっかり名前も呼べなくなるので、できるだけ試みる、という事でいいかと思っています。今年も所員達が瞳を輝かせてくれる「楽しみながらできること」を探す旅は続きます。

で、今ではほとんどの家族が、親が高齢となっても市内やその近くのグループホームや小さな入所施設で、暮らせるようにしたいという希望を持つているそうです。

と個性豊かに社会参加し、自己実現することを目指しています。

「山びこ」が出来る以前は、養護学校卒業後、障害の重い人たちはほとんどの方が遠隔地の入所施設に入っていたそうです。「山びこ」が出来た当初は、通所施設に通うことに抵抗を示す家族も多かったそうです。

照明が落とされ、ショータイムの始まりです。「PUFFY」「SMA P」「安室ちゃん」「ウルフルズ」等々、次から次へと去年のヒット曲が流れ、皆はのりによって、踊る踊る。

盛りだくさんのプログラムと熱気ムンムンの交流会

る。『こどものへや』の面々は、他の作業所の人よりだいぶ控え目な手足を動かしました。リーダーの方々の仮装もなかなか楽しめました。

昼食はドッグパンと豚汁を作って

最近、そのために必要とされるショートステイ施設の設立を目指す動きが、『山びこ』の家族を中心として出てきているそうです。親の病気の時の一時保護・本人の体験宿泊家族のレスパイトの為に気軽に一時宿泊出来る小さなホームで、市も具体的に検討を始めたそうです。

このように、障害の重い人を含め誰もが共に暮らしていける町を作るノーマライゼーションの基本理念を推進する事が、デイセンター『山びこ』の地域に於ける役割だそうです。

横須賀三浦地区に於いても、地域の利用者一人一人が生き生きと個性豊かに生活できるように、個々のニーズに合った様々な施設ができることが望まれます。

くれた方々に感謝をしながら、大変おいしくいただきました。

午後のは、行動がスローな『こどものへや』がホールに戻ると、既に、交流会新参加作業所の紹介が始まっています。

最後は、大道芸愛好家によって、皆の手拍子とかけ声「さて、さて、さては」の南京玉すだれの楽しい芸を、披露して下さいました。

パラエティに富んだプログラムを楽しみました。準備をして下さった方々、ありがとうございました。

指導員 上野 幸子

『こどものへや』 四番目の誕生日

イタメシで大人の味を……
ホテルで大人の雰囲気……

一月二十日、暦の上では(大寒)だったはずなのに、何と三月上旬の温かさとか、一年で一番寒い時期の外出なのでちよつと心配だったので、幸いに康雄君は元気に出かける事が出来ました。行き先は上大岡の、今話題の京急百貨店です。

汐入から閑かな各駅停車の電車に乗ると、さつと座席に座り、車内を好奇心旺盛に見回したり、車窓から

の光景をじっくり楽しんでいたりする内に顔が生き生きしてきました。上大岡に着くと、駅員さんが至れり尽くせりで、エレベーターに乗るまで見届けて下さいました。

先ず十階のレストランフロアに行き、十四店舗の下見をして、康雄君の好きそうな店を二・三チェックしてから、六階の流行の店でプレゼントを買いました。タータン柄のアウ

ターにもなるコットンシャツを選びました。康雄君の、「もうショッピ

ングはいいよ」といいたげな顔を見て、いよいよ楽しみにしていた食事です。康雄君の大好きな鰻の『伊勢

定』さんも魅力で、五分位立ち止まったのですが残念……。ゴージャスなイタリア料理『プチモンド』に決め

ました。若い康雄君にはポリウムたっぷりの『牛肉のロースケール』

アミ焼き風ステーキを頼みました。おいしいそうにしっかりとろろかみしめて、また酸味のきいたマリネ風の大人のサラダも味わう事が出来ました。

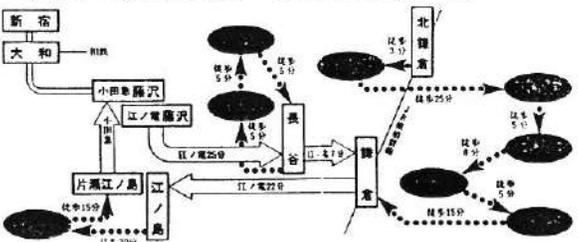
ゆつくりと腹ごしらえが終わり、早めに上大岡を後にして、十分に時間があるので、ファイナレは汐入の

梅がとってもきれいで、境内全域が国の史跡になっている由。先ずご本尊の釈迦・阿弥

陀・弥勒の三世仏を安置す

ろ①り
いずぐ子
ろーめ
いり神悦
シ福
事味七田
な趣
きの倉小
好私鎌

モデルコース(江の島・鎌倉フリーパスがおすすめてす)並コースも可



趣味シリーズの一番手、これと言つて大した趣味も無いのに一番手というのは緊張する。健康づくりも兼ねて、十数年前からお友達と史跡巡りだとか、花の寺巡りだとか言つては古都鎌倉を散策するのが大好き。

雅やかな伝統、四季折々に咲く花、そしてひっそりとした古いお寺に、安らぎを感じるの私だけでしょ

か。この度は康雄を指導員さんにお任せしてる間に、昔からお正月行事の様になっている、鎌倉七福神巡りを回れる所までということ、初めて主人と二人で出かけてみました。

北鎌倉駅をスタートに一番目の浄智寺まで、歩け歩け、何度か来た事のある円覚寺の前を通り、その昔は駆け込み寺だったという東慶寺を今日は横目に、「五山第四」と石碑のある浄智寺へ……。入り口あたりに蠟

目当ての幸福を授ける神、布袋尊は

お腹を突きだしたユーモラスなお姿で、あらぬ方を指さし洞窟に……。

「幸せはすぐそこにあるよ、ホラ、あそこに」と教えてくれている様

でした。次は鶴岡八幡宮の中の島にある旗上弁財天。本殿に参拝してから、音

楽とか財運を授ける神、弁天様に宝くじが当たります様に……。三番目の妙隆寺では寿老人に健康で長生きで

きます様に。四番目本覚寺の夷神は鎌倉幕府の守神だった武の神様、定

朝作と伝えられ、真っ黒で艶があり合掌したお姿に、家運隆昌を願ひ、(歩数これ迄約九千歩)この後は安

養院と長谷寺と御霊神社等行きましたが、何を願ひしたかは内緒、しっかりとお願いしましたからきつと今年はいい事があろう。皆様も、いらしてみたいかがでしょうか。

観、「うーん美しい」しばし見とれる。そしてお

二月行事予定

- 五日・清水先生の訓練
- 七日・特総研
- 十三日・あじさい交流会
- 十八日・スポーツ教室
- 二十日・定例代表者会議

◎ ありがとうございます

賛助会員を募っています

募っています

◎ 介助ボランティア

- ・ 沢田文字子様
- ・ 今江恭子様
- ・ 福田香代子様
- ・ 村田光恵様
- ・ 山崎和子様
- ・ (音楽教室)
- ・ 山本利子様
- ・ 大野静枝様
- ・ 新井光枝様
- ・ 谷 ゆう子様
- ・ 宮前浩子様

◎ 作業ボランティア

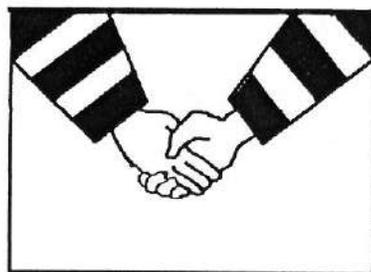
- ・ 山口美津枝様
- ・ 三浦寿美恵様
- ・ 飛栖郁子様
- ・ 最上堯子様
- ・ 石田妙子様
- ・ 細野清美様
- ・ 川名道子様
- ・ 杉原静子様
- ・ 土川八重様
- ・ 安田靖子様
- ・ 中本久恵様
- ・ 垂見和子様
- ・ 堀田園子様
- ・ 山田千代子様
- ・ 熊本美枝子様
- ・ 小屋友江様
- ・ 大館百合子様

◇ 寄付

- ・ 鍛冶和男様
- ・ 澤田テル子様
- ・ 田浦千秋様
- ・ 河合様
- ・ カムイのお母さん
- ・ バルコン ナイトウ様

こどものへや

発行責任者 滝川郁子
〒239 横須賀市長沢 1-12-30
TEL. FAX (0468) 49-8349



横須賀地区作業所連絡会研修会報告

その一（薬物療法の光と影）を聞いて

医療的ケアについて

一月二十五日、作業所連絡会主催による研修会が開かれました。私は、十愛病院の竹山孝二先生による「医療的ケアについて」のお話を伺いました。ここでは主に、向精神薬の種類・化学名・商品名・副作用についての説明がありました。

向精神薬には、抗不安薬（抗神経症薬・緩和剤）抗うつ薬、抗精神病薬（神経遮断薬・強力精神安定剤）睡眠剤、精神刺激剤（精神賦活薬）抗てんかん剤などが上げられました。副作用としては、力価の高い薬では、ジストニア発作・アカシジア・パーキンソンズムが見られ、力価の低い薬では、催眠・自立神経循環・内分泌・代謝系の副作用が起り易いということでした。

薬の服用に際しては、どんな薬においても言える事ですが、薬の内容作用・副作用など、よく理解しておくことが必要だと言えます。竹山先生も三分間診療についてふれられていましたが、症状を十分に医師に説明し、医師との意志の疎通を計る事が重要だと感じました。自覚症状を自分で表現できない人達に対してはケアする者の注意や心づかいが大切である事、家庭でケアする者と作業所でケアする者との連絡がしつかりできている事が必要と言う事

も改めて感じました。そうゆう事が効果的な薬の服用につながると思えます。又、薬の副作用などを知る事は、個人の人格を知る上にも、大切な事だと感じました。

指導員 相川 英里子

その二 人権擁護とは何か 考えてみよう！

川崎授産学園「つばき寮」寮長の齊藤進治氏の講演、知的障害者の権利を守るために「あおぞら宣言」を

作られた過程を伺いました。

障害を持つている人が、社会の中で自分の権利をどのように守っているのか、日常生活で困っている事聞いて欲しい事、相談にのって欲しいと願っている背景がありました。人権に関する問題は多く、関心が高い事がわかりました。施設利用者や、施設や職員にどのような意見を持つているのか、話し易い雰囲気を作って聞いてみました。

職員に対してほとんどの人は、気を使って良い関係が保たれている。少数ですが、プライバシーが守られていない事、体罰や金銭管理などの考えさせられる問題がありました。

組織として、どのようにサポートできるのか、プラン作りにも各施設長の考え方の相違など、ためらいや迷いの中で、プランを作り各施設に

配布してみました。

「あおぞら宣言」では、『知的障害者権利擁護』『職員倫理』『職員行動計画』『オンブズマン制度』です。『知的障害者権利宣言』の中では、私達一人ひとり自由と平等のもと、あるがままに受け入れられ、差別されず大切にされたい。そして、苦情や意見・訴えを聴いてもらいたい。いつでも相談できる専門機関を利用して、解決したいと書かれています。

これらの制度運営には、現在検討中です。今後ガイドラインとして運用されたいら、施設や作業所での意識統一ができるかと話されていました。共に生きていく仲間として、話し合う機会が、常に開かれていなければいけないと痛感しました。

指導員 岸 照子

社会福祉協議会の事業として、ボランティア・センターが「小・中学校ボランティア・スクール」を開いていることを、皆様は知っていらっしゃいましたか。十年ほど前から始まり、このところ学校からの要望が多く、予算が不足するほどだそうです。原則として講師二名の方が、学校へ出向いて下さり、映画・手話・点字・車椅子の扱い方・懇談会・講演会・障害のある方とのふれあい等の中から、希望するものについて行

って下さい。

この活動を初めとして、今学校でどのようなボランティア学習を行っているのか、全く知りませんでしたので、第二分科会「変わりつつある学校教育とボランティア活動」に参加

加させていただきました。市立田戸小学校と県立久里浜高校の実践報告がありました。田戸小学校では、「ふれあい教育」として、①学区内の授産施設「ひまわり」とのふれあい ②地域の人々・老人会とのふれあい ③ボランティア・ス

第十一回 横須賀ボランティア学習セミナーに出席して

クルール ④日常教育活動の中でのふれあい

を年間計画に基づき行ったそうです。三年間にわたる「ひまわり」との交流は次第に自然体となり老人会の方々とは、お礼のことばや会話を通し子供達のふれあい活動の意欲が高まってきているそうです。

意見の中に、中学校でのボランティア学習も知りたいという希望がありました。学校での教育内容も多岐にわたり大変だとは思いますが、ボランティア教育の今後に期待します

所長 滝川 郁子

やすらぎ作業所を見学して

やすらぎ第一作業所

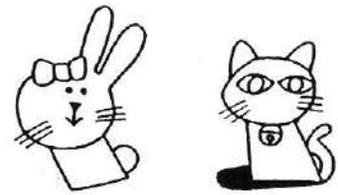
やすらぎ第一作業所は、浦上台にあります。一月二十八日に見学させて頂きました。

当日は、小物入れの箱に切手をモザイクのように張ってゆく作業をしていました。いつもスポーツ教室で会っている人達ですが、スポーツの時よりも笑顔が見られ、ここは自分達の場所、と言った雰囲気を感じられました。部屋の片側には、何種類もの古切手が分類されて小箱の引き出しに入れてあり、その種類と量にびっくりしました。これらの切手は使用済みの物を各方面から送ってもらい、それをボランティアセンターで封筒の紙から外してもらっているそうです。

その日所員の人達は、主に緑色の切手を職員の手を借りながら、のりを付けては直線やカーブの模様を一枚ずつ箱に張っていました。その横では、箱の内張りを一人の方が専門にやっていました。形は四角・六角・変形三角とさまざまですが、慣れた手付きで見学の間にも、何個も出来上がっていました。

第一作業所では他に、飾りマグネツトも特殊な粘土で作っていて、可愛い動物の顔や色々な野菜、見ると食べたくなるような一人前の握り寿司

司のミニチュアなど、どれも細かい作品です。動物の目を入れるのが上手な人もいます。色々な作業があると、所員も得意な作業に出会えて良いものだな、



回を重ねる毎に、あじさい指の会の方とは、少しずつお近づきになってきています。班毎の自己紹介の時、朋美さんの横に来て挨拶してくれたのは、二歳のさきちゃんとそのお母さんでした。

さきちゃんママは、若くてきれいで、朋美さんにとってはやさしいお姉さんのように思える方だったようです。朋美さんは、最初から気持ちを通わすことができたようを目を見てにこやかに挨拶。

さきちゃんは、最初は慣れない場で不安なのか、お母さんの側を離れなかつたのですが、プログラムが進むにつれてすっかり慣れたようで、お友達を見つめてバルコニーで遊ぶようになりまし

める朋美さんは、とても穏やかで、

と思いました。

『こどものへや』でも他の作業が出来ると良いのにと思っていると、お腹が空いて作業をストップする人も出始め、私達一行六人は、やすらぎを後にしました。

指導員 高橋 賀子

やすらぎ第二作業所

毎回バザーの人気商品である美味しい手作りクッキーの『やすらぎ』さんをお訪ねしました。既にクッキーの生地は出来上がっていました。

やさしく、当然ですが大人の顔でした。

初めてで、しかも小さいお子さん連れの方に、食事の介助は難しいかなとも思ったのですが、三人の関係がとても自然に思えたので、

お願いしてみました。朋美さんは、小さいさきちゃんが時々お母さんの所にかける中、

でしたが、やさしいお姉さんとして落ち着いて食事をする事ができました。

この日の朋美さんは、終始落ち着いていて、賑やかなおばさん達の中での、いつもの朋美さん、とは違う、大人の朋美さん、でした。

次回の出会いを楽しみにしております。

指導員 鈴木 成子

ちようど型抜きして焼くまでの午前中の工程を見学させていただきました。

この日は女性四人の所員さんと、指導員・ボランティアさんが、それぞれ大理石の台の上で生地を伸ばし型を抜いて飾りをつけ、クッキングシートに並べます。主に子どもでも大人でも、すぐ仲良くなれそうな乗り物や小鳥・動物の楽しい型です。

所員さんは皆個性豊かで、クッキー作りを自分の仕事として、しっかりと意識して作業を楽しんでいるのが印象的です。生地が無駄にならないよう型を使い分け、工夫し、指導員さんとボランティアさんが自主性を大事にして、さりげなく関わって居られるのも勉強になります。

モラスなブタの型一つをとっても、所員さんの個性が楽しいです。ちよつとつり上がった目、パンダのような耳、星のボタン、蝶ネクタイと、皆ゆつくりと器用に、

湯せんしたチョコにそれぞれの想いを託して、手で丸め、生地に乗せ、バリエーションが広がります。この一生懸命の想いが人気の秘密だったので、

ね。所長さんの「自分の意志で行動させる」という言葉どおり、ゆつくりさりげなく見守る光景や、食べ物を扱うので、清潔だったのは言うまでもありませんが、何にもまして所員さんが明るく楽しそう、又、ぬくぬくと温かい作業所で幸せそうでした。

指導員 前田 邦子

三月行事予定

- 一日・SKY総会
- 四日・職員会議
- 五日・健康診断
- 八日・追浜社協バザー
- 十一日・スポーツ教室
- 十二日・清水先生の訓練
- 十四日・特総研
- 二十六日・四日 春休み

◎ ありがとうございます

◇ 介助ボランティア

- ・ 沢田文子様
- ・ 今江恭子様
- ・ 福田香代子様
- ・ 村田光恵様
- ・ 山崎和子様
- ・ 成枝直美様
- ・ (音楽教室)
- ・ 山本利子様
- ・ 大沢央子様
- ・ 新井光枝様

(給食)

- ・ 谷 ゆう子様
- ・ 宮前浩子様

◇ 作業ボランティア

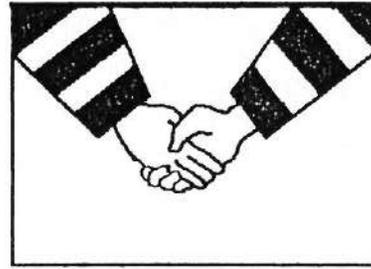
- ・ 細野清美様
- ・ 一柳八重様
- ・ 山口美津枝様
- ・ 三浦寿美恵様
- ・ 飛栖郁子様
- ・ 最上堯子様
- ・ 石田妙子様
- ・ 沢田文子様
- ・ 川名道子様
- ・ 杉原静子様
- ・ 土川八重様
- ・ 安田靖子様
- ・ 大館百合子様
- ・ 垂見和子様
- ・ 堀田園子様
- ・ 山田千代子様
- ・ 熊本美枝子様

◇ 寄付

- ・ 入江美佐子様
- ・ 池尻明子様

こどものへや

発行責任者 滝川郁子
〒239 横須賀市長沢 1-12-30
TEL. FAX (0468) 49-8349



社会福祉研究発表会に参加して

第三十五回

障害は人格ではない、その人の個性である

二月十三・十四日 於 県社会福祉会館

基調講演で、福祉政策の新しい動向について、丸尾直美慶応義塾大学教授は、スエーデン・アメリカを例にとり、これまでは住宅にケアの付いた、サービスマウジングが多く作られてきた。健康者と同じに家賃を払い、同じレストランやバーが利用出来、一階にサービスマウジングセンター・幼稚園・老人ホームの入った型が普及していたが、八十年代後半からは、住み慣れた場所を離れなくて良い・住宅福祉へと移行している。一面では、経済上の理由もあると話された。

ノーマルな生活とは、自宅で一生を終えることであり、在宅医療・看護のネットワークを作り、高齢者も若者も障害者も共生でき、自然と人間も共生できることである。

又、福祉にお金を掛けると、イギリス病・スエーデン病になるという考えがあるが、決してそうでなく、福祉に使うお金は雇用にも役立ち、経済成長にもつなげると、経済学者の立場で話されていた。日本は福祉ミックスで、スエーデンのように公的ばかりでなく、民間が参加することが出来、サービスマウジングに出る良いことだとも言われた。

後、助言者の和田清 社会福祉法人「翔の会」理事は、作業所では仕事をしなさい、進歩して行く人は良い。そうでない人は、一生訓練なのかと言われ、本人がどうしたいのか、それを計ってサポートしていく。リラクセスして遊びながら人として輝いていけるように、遊びも怠けも含めて自立なのだ、と話された。

新しい年度の書類の準備をしながら、幹大君の名前を書くことは、もう無いのだと寂しい気持ちになりました。所員達は、幼い頃から肺炎や発作等で、何回か命が危ない時がありました。それを乗り切り成人し、体調が安定した時期に入ったと安心していました。そんな気持ちの隙をつかれたような気がします。長い間服薬していますし、体調の不良を言葉では表現できない若者達です。

やはり気をつけなくてはと思つていきます。だからと言って臆病になつてもいけないし、散歩やいろいろな所への外出を続けていきたいと思つていきます。指導員がつけている個人日課表には、健康についての記述が多く見られます。特に発作・アトピー・体重・常動行動によってできる傷・

「企業に働く立場から」では、自己のゆとりと創造の為に、水曜日は残業があつても明日に回して、全社員退社すると聞き、これこそ福祉だと思ふ。

「参加型福祉と市民パートナー活動」では、特別養護老人ホーム「ラホール藤沢」での、施設に入るとはそこに住民票を移すことであり、家庭と同じようにと工夫している。入所者個人にもパートナーが付いて、図書館へ買い物へドライブにと出かけている。又、地域の人が自由に出入り出来、ロビーの壁はミニギャラリーとして開放している。地域作業

栄養の偏りによる貧血・不規則睡眠・性の事など、長年一人一人が抱えてきている問題です。改善するのに難しい事ばかりですが、一つでも少しでも良くなるように、家庭でも作業所でも心がけていきたいと思ふ。何と言つても、

「健康第一」です。では第二は？それは「喜怒哀楽」を大切に、です。個人のアルバムを見てみると、この四年間で写っている表情が豊かになってきました。こぼれるような笑顔、つまらなさそうな表情、「なーに」と興味深々の目付きなど、感じたことが表情には

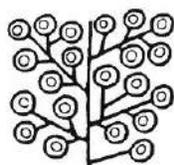
「健康第一」
― 来年度も体力をつけよう ―

所のパンや地元の野菜も販売している。ボランティアを、市民パートナー・地域に住むお隣さん、として入居者や利用者とお互いの対等なお付き合いをしていると聞き、未来が開かれる思いでした。

最後に、コーディネーター木原孝久福祉教育研究会主宰は、「福祉とは、皆が人間らしく生きていくことを考えること、その中にボランティアがある。地域の福祉を作ることが大切であり、福祉問題は自分の問題自分も人間らしく生きる道が福祉である」と結ばれました。

四月からは、二人の所員が入所します。二人の新鮮な雰囲気、ちょっと寂しかった「こどものへや」がまた賑やかになることでしょう。

五人は、先輩風を吹かせるのでしょうか。七人は、どんな集団を形作っていくのか楽しみます。



所長 滝川 郁子

